

## プログラム卒業生からのメッセージ

### 栃木医療センター 総合診療プログラム 山口高史

栃木医療センターの総合診療プログラム&新・家庭医療プログラムは、総合内科医や家庭医を目指す後期研修医に非常に適した環境です。担当する診療範囲は全ての内科疾患であり、総合内科医+専門医（循環器、消化器、膠原病内科）との日々のチームカンファや熱心かつ優しい指導医との症例振り返りを通して、幅広い内科疾患への対応力を着実に身につけることができます。私は common disease をしっかり診ることのできる家庭医を目指していますが、日々のカンファレンスや指導医とのディカッションを通して最新の evidence に基づいた診療を展開する癖が自然と身についていることを実感しています。また、臨床推論カンファレンスや招聘講師による EBM 勉強会、フィジカルカンファ等、目的のはっきりした勉強会を通して、内科医としてさらなるレベルアップを図ることができます。家庭医療の学びとしては、毎週開催している“家庭医療カンファ”や“振り返りカンファ”、年4回開催している県内の他プログラムとの“合同ポートフォリオ発表会”などを通して家庭医療のコアや実践を学ぶことができます。心理社会的な問題などで困難事例も多いですが、自己省察をする機会として、心理的安全性の保たれた環境での振り返りを意識しています。さらに、診療所研修も同じ医療圏で行うため、時には同じ患者さんを病院でも訪問診療でも担当することができます。着実な内科診療の力を身につけつつ、家庭医としての学びも深めたいと考えている方にはピッタリの環境だと思います。是非一度見学に来てください。

### 栃木医療センター 総合診療プログラム 笠原悠佑

栃木医療センターの総合診療プログラムは患者一人一人の生活に寄り添った医療を提供することを目指しています。最新の evidence に基づいた医療を学びつつ、家庭医療の本質を学ぶことができる貴重な研修環境と感じています。個性的かつそれぞれ得意分野の違うスタッフの先生からは、時に情熱的に、時に優しく指導していただき、臨床推論や患者マネジメントの能力の上昇を実感できます。また訪問診療や週一回の振り返りを通じて自然と生活背景に目を向けることができるようになりました。「患者」ではなく「目の前にいる誰か」を診ることにご興味のある方は、是非ご応募ください。

### 栃木医療センター 内科プログラム 城田 祥吾

栃木医療センターの内科後期研修は、日本で最も優れた後期研修の一つだと感じています。良いと感じるところは、枚挙に暇がありません。総合内科医+専門医(循環器、消化器)と後期研修医で構成されるチーム編成、すべての内科疾患を受け入れる体制、救急から入院管理、外来フォローまでを一貫して行えること、指導医とのマンツーマンでの入院患者の方針相談と外来振り返りからチーム、内科全体での症例検討、毎日内容が変わる昼の勉強会、招聘講師による臨床推論特訓、EBM 勉強会、フィジカルクラブ(身体診察勉強会)、膠原病症例相談、面倒見のよい指導医の方々、相談しやすい内科全体の雰囲気、などなど。研修の

中で内視鏡や心臓カテーテル検査、超音波検査なども自由に選択して研鑽することができます。これだけ豊富なコンテンツがある中、カンファレンスや勉強会の内容もより目的意識をはっきりさせ、意義のあるものにしようと試行錯誤し、進化しています。変化の中にこそ成長があります。現状で満足することなく、日々進化している当院の研修をぜひおすすめします。

## 現レジデントからのメッセージ

### 栃木医療センター 総合診療プログラム 大阿久和誠

私は栃木医療センターの総合診療プログラムに所属する専攻医として研鑽を積んでいます。当院での研修の大きな魅力は、幅広い疾患を実際に経験できる点にあります。日常的に遭遇する疾患はもちろんのこと、時に希少な疾患にも出会う機会があり、実臨床の中で確かな診療能力を養うことができます。また、上級医との距離が近く、いつでも相談しやすい環境が整っているのも大きな特徴です。安心して主体的な診療に取り組める風土の中で、段階的にスキルを高めていくことができます。診療の場も多岐にわたり、病棟・外来・訪問診療などさまざまなフィールドでの実践を通じて、患者さんに寄り添った医療を学ぶことができます。さらに、医学的な知識だけでなく、患者さんの心理的・社会的背景を理解し、対応する力を身につけることも重視されており、BPS モデルに基づいた全人的医療の実践が可能です。現在、私は他院での研修を行っておりますが、これまで栃木医療センターで培った経験が強く生きていくことを日々実感しています。当院の研修は、総合診療医としての基盤を築くうえで、非常に価値のあるものであると言えます。

### 栃木医療センター 総合診療プログラム 鶴山保典

現在、総合診療プログラムの研修を受けています。栃木医療センターは経験できる症例が幅広く、コモンな誤嚥性肺炎や腎盂腎炎などの感染症から、顕微鏡的多発血管炎、重症筋無力症など稀な疾患まで経験を多く積める点が良いと思います。急性期のマネジメントだけでなく、退院先や終末期の治療方針の決定など、家庭医療に必要な思考やスキルも学べることも魅力と思いました。指導医の先生方の背景も多彩なため、カンファレンスでは自分では気づかない方向からの視点を曝露することができ、患者のマネジメントの幅が広がります。勉強会や症例の相談の時間も確保されており、システム面での不都合はないと思います。病棟以外の建物が古い、医局が外来や病棟から遠い、動線が悪いなどの建物の問題が目につきますが、その辺を気にしないなら十二分な研修を受けることができるのではないのでしょうか。